

日本のポップカルチャー・ファンは 潜在的日本語学習者といえるか

近藤裕美子・村中雅子

〔キーワード〕 ポップカルチャー、日本語未習者、日本語学習への関心、学習目標、日本語普及政策

〔要旨〕

本研究では、日本のポップカルチャー・ファンが日本語学習者になりうるか否かを検討するため、日本語未習者に着目し、ポップカルチャーへの関心と日本語学習への関心との関連性について考察した。具体的にはパリ日本文化会館の日本文化関連事業の来場者83名を対象に質問紙調査を実施し、日本語未習者のポップカルチャーへの関心の強さと日本語学習への関心の強さ、および学習目標への関心の強さをスピアマンの順位相関係数の検定を用いて分析した。

その結果、ポップカルチャーに関心が強い未習者の方が日本語学習への関心が強い傾向にあること、また学習目標設定にはポップカルチャーに関連のあるコンテンツが基準となる傾向があることが分かった。

本研究の結果は、日本語を普及する上でポップカルチャーに関心が強い人をターゲットにすることは効果的であるという仮説を支持するものになったが、学習開始後の継続学習支援の方法は依然として未解決の課題である。

1. はじめに

国際交流基金が2006年度に実施した海外日本語教育機関調査によると、海外の日本語学習者数は298万人で、1979年から2006年の27年間に23.4倍に、前回調査の2003年度からは1.3倍に増加した。そしてこのような日本語学習者の増加の背景として、アニメ・マンガをはじめとするポップカルチャー⁽¹⁾への関心の高さが指摘されている。実際、2009年7月にパリ郊外で開催されたJapan Expo⁽²⁾では4日間の来場者数が16万4千人以上に上ったが、パリ市内のある大学の日本語学科の講師の話では、2009年度の新入生の8割がこのイベントに足を運んだと言う。

また、政策レベルにおいても、日本語学習とポップカルチャーは関連付けて語られることが多くなってきた。国際交流基金の2004年度の年報は、2003年海外日本語教育機関調査の結果として、マンガ、アニメ、ゲームソフト、ファッションに代表される日本のポップカルチャーへの関心がきっかけとなって学習を開始するケースが多数指摘されていることを報告し、それが日本語学習者増加の一因と分析している。さらに同2007年度の年報では、「海外における日本

語教育への積極的取り組み」と「ポップカルチャー等の新しい分野の日本文化紹介」を新たな具体的活動方針として掲げている。

一方、外務省は「ポップカルチャー専門部会」を設け、「ポップカルチャーの外交における活用」を協議し、政策レベルでのポップカルチャーの活用の検討や、ポップカルチャーを利用した日本語普及に力を入れている。海外交流審議会⁽³⁾は2007年に提出した『日本の発信力強化のための5つの提言』の中で、世界的なポップカルチャー人気を活用しつつ、より広い日本文化への関心や日本語学習による継続的な対日関心の維持につなげていくために、ポップカルチャーを含む日本文化の魅力を体感し、幅広い層に日本語教育を提供することができるような海外拠点を多数設置することの重要性を説いている。

このように近年ポップカルチャーは、日本語学習動機や日本語普及政策の面で注目されており、日本語教育の世界では一つのキーワードと言えるだろう。

それを裏付けるように、ポップカルチャー、特にアニメやマンガの日本語教育現場での活用法や日本語学習とアニメやマンガとの関連性などが検討されるようになり、実践報告や調査研究が散見されるようになった。(因2005、熊野・廣利2008、矢崎2009など)

特にポップカルチャーと日本語学習動機の関連性に関する研究報告としては、萩野(2007)や熊野・廣利(2008)があげられる。萩野(2007)はアニメやマンガと学習動機に関するアンケートを学習者に対して実施し、その結果を踏まえた読解教材活用の実践例を紹介している。また、熊野・廣利(2008)はアニメやマンガに関する調査研究の一環として関西国際センターの研修生への聞き取り調査を行い、「『アニメ・マンガ』が日本語学習のきっかけとなっていることや、最新の『アニメ・マンガ』の翻訳を待たずにすぐに見たり、読んだりしたいことが日本語学習の強い動機付けとなっている」(熊野・廣利2008:65)と結論付けている。

しかしながら、これらの先行研究は、日本語学習をすでに始めている人を対象とした調査であり、日本語学習を始めていない未習者とポップカルチャー、日本語学習との関連はわかっていない。つまりポップカルチャーへの興味・関心が日本語学習者の学習動機に影響していることは確認されているものの、ポップカルチャーに関心がある日本語未習者が日本語学習にも関心を示しているかどうかはわかっていない。ポップカルチャーが日本語未習者を日本語学習へ導くための要素として活用できるか否かは明らかになっていないと言える。ポップカルチャーと関連付けて日本語普及政策を展開していくならば、ポップカルチャーに関心がある日本語未習者の日本語学習への関心も検討対象とする必要があるだろう。

そこで本研究では、日本語未習者を対象として、日本のポップカルチャーに関心がある人は日本語学習にも関心があるのか、ポップカルチャー好きが日本語学習者となりうる可能性があるのかについて考察する。あわせて、もしポップカルチャー好きが日本語学習に関心があるとすれば、日本語を学習することによりどのようなことを実現したいと考えているかを明らかに

することを目的とする。加えて、本研究では、先行研究で考察されているアニメやマンガ以外のジャンルのポップカルチャーも射程に入れて検討することにする。

2. 研究課題

以上述べてきた背景と研究目的を踏まえ、以下の2点を研究課題として設定し、質問紙調査を実施した。

研究課題1：日本語未習者のポップカルチャーへの関心の程度は日本語学習への関心の程度と相関するか。

研究課題2：日本語未習者のポップカルチャーへの関心の程度はどの学習目標への関心の程度と相関するか。

3. 調査の手続き

3.1 予備調査と質問紙作成

質問紙の作成に先立って、2009年5月と6月に2回の予備調査を行った。調査に使用した言語はいずれもフランス語である。

まず日本のポップカルチャーに関する具体的な行動と日本語学習目標を収集するために、1回目の予備調査ではパリ市内の大学で日本語を学び、かつ日本のポップカルチャーに興味を持つ学生46名（平均22歳）を対象に、日ごろ自分がしている日本のポップカルチャーに関する行動と日本語を使ってできるようになりたいことを自由記述で書き出してもらった。その記述を調査者2名で分析、分類し、ポップカルチャー行動7項目⁽⁴⁾とポップカルチャーに関連があると解釈された学習目標2項目を抽出した。

2回目の予備調査ではパリ市内の私立の日本文化センターの会員88名（平均35.5歳）を対象に質問紙を配布して行った。質問項目は合計21項目で、3つの部分で構成されている。まず1回目の予備調査で抽出したポップカルチャー行動に関する7項目、次に日本語学習への関心の程度を問う1項目、最後に関心を持つ学習目標とその程度を問う13項目である。学習目標に関する項目は、1回目の予備調査で抽出したポップカルチャーに関連する学習目標2項目（本調査質問紙の項目8と項目11、稿末資料を参照のこと）に、Swiss European Language Portfolio Model +15⁽⁵⁾の自己評価チェックリストを参照しつつ、調査対象者が現実遭遇する可能性がありそうな状況や場面、各技能のバランス、レベルのバランスを考慮して作成した11項目を加え、計13項目となった。これらの項目を、ポップカルチャー行動については「いつもしている」から「まったくしない」、学習への関心と学習目標については「まったく同意である」から「まったく同意しない」の5件法で回答してもらった。

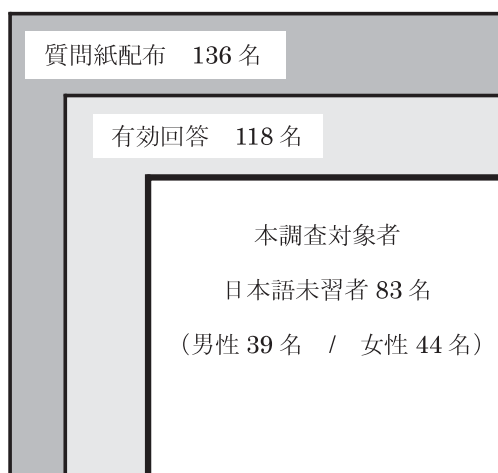
ポップカルチャー行動についての7項目は日本のポップカルチャーへの関心の程度を測る尺度項目とするため、1因子でバリマックス回転する因子分析を行った。その結果、因子負荷量が.40に満たない1項目⁶⁾を省き、最終的に6項目を本調査で使用する日本のポップカルチャーへの関心の程度の尺度項目とした。学習への関心についての項目と、学習目標についての項目はフランス語の表現のみを最終調整し、予備調査と同じ項目を本調査にも採用した。

3.2 本調査

3.2.1 対象者

本調査ではパリ日本文化会館の日本文化講座を2009年6月、7月に受講した53名（茶道17名・書道8名・華道5名・碁15名・マンガ8名）と2009年7月2日～5日に同じパリ日本文化会館で開催されたジャパン・ポップ・フェスティバル⁷⁾に会場した83名、合計136名にフランス語の質問紙を配布した。136名のうち118名から有効回答が得られたが、そのうち35名が日本語既習者であったため、最終的に日本語未習者の83名（男性39名・女性44名）を調査対象者とした。調査対象者の最少年齢は12歳、最高年齢は68歳、平均年齢は32.9歳だった。

図1 本調査対象者数



3.2.2 質問紙

質問紙はポップカルチャーへの関心の程度を測定する6項目（Q1～Q6）、学習への関心の程度を問う1項目（Q7）、学習目標とその関心の程度を問う13項目（Q8～Q20）の20項目とフェースシートで構成されている。各項目とも予備調査と同様に5件法で回答してもらった。なお項目の信頼性はクロンバックの α 係数を求めて検討した結果、 $\alpha=0.95$ となり、高い一貫性が認められた。質問項目の詳細とその和訳は稿末資料に添付した。

3.2.3 得点化

Q1からQ6までは「いつもしている」を5点、「よくする」を4点、「ときどきする」を3点、「あまりしない」を2点、「まったくしない」を1点とし、得点化した。Q7からQ20までは「まったく同意である」を5点、「どちらかと言えば同意である」を4点、「同意でも不同意でもない」を3点、「どちらかと言えば同意しない」を2点、「まったく同意しない」を1点とし、得点化した。

4. 結果

4.1 研究課題1

ポップカルチャーへの関心の程度を測定する項目1から6の得点を合計し、その合計得点と日本語学習への関心の程度を問う項目7の得点に相関があるか、スピアマンの順位相関係数の検定を行い、相関係数 (ρ) を求めた。その結果 ($\rho = .3958, p < .001$) で弱い正の相関がみられた。ポップカルチャーへの関心の程度は日本語学習への関心の程度と正の相関関係があることがわかった。

4.2 研究課題2

ポップカルチャーへの関心の程度を測定する項目1から6の得点の合計と学習目標とその関心の程度を問う項目8から20までのそれぞれの得点に相関があるかを確認するために、スピアマンの順位相関係数の検定を行い、相関係数 (ρ) を求めた。その結果、項目8. 「テレビドラマやアニメを字幕なしで理解できるようになる」 ($\rho = .5948, p < .001$) と項目11. 「マンガを日本語オリジナル版で読めるようになる」 ($\rho = .5059, p < .001$) に中程度の正の相関がみられた。また項目18. 「マンガのシナリオや小説を書けるようになる」 ($\rho = .3567, p < .05$) と項目20. 「日本に関する領域で仕事または研究できるようになる」 ($\rho = .2488, p < .05$) に弱い正の相関がみられた。それ以外の項目には有意な相関はみられなかった。以上のことから、ポップカルチャーへの関心の程度は一部の学習目標への関心の程度と正の相関関係にあることがわかった。

表1 ポップカルチャーへの関心の程度と日本語学習への関心の相関係数

人数 (n) 83	同順位数22
同順位補正相関係数 (ρ)	同順位補正 p 値
0.3958	0.000337636**

表2 ポップカルチャーへの関心の程度と各学習目標への関心の相関係数

	人数 (n) 83	同順位数22
	同順位補正相関係数 (ρ)	同順位補正 p 値
Q8	0.5948	0.000000072**
Q9	0.1213	0.272124
Q10	0.1529	0.166136
Q11	0.5059	0.000004618**
Q12	0.1853	0.093379
Q13	0.1614	0.143795
Q14	0.1500	0.174213
Q15	0.1311	0.235238
Q16	0.1095	0.321364
Q17	0.1880	0.088735
Q18	0.3567	0.001239127*
Q19	0.0719	0.514966
Q20	0.2488	0.024237166*

5. 考 察

日本語未習者のポップカルチャーへの関心の程度と日本語学習への関心には正の相関関係があったことから、ポップカルチャーへの関心が高い未習者はポップカルチャーへの関心が低い未習者より日本語学習への関心が高い傾向にあることがわかった。日本語学習者の増加を期待するのであれば、ポップカルチャーへの関心が高い未習者をターゲットに、日本語学習体験の機会を与えるなどの方策をとることが有効であると考えられる。

またポップカルチャーへの関心の程度と「テレビドラマやアニメを字幕なしで理解できるようになる」、「マンガを日本語オリジナル版で読めるようになる」、「マンガのシナリオや小説を書けるようになる」、「日本に関する領域で仕事または研究できるようになる」の4項目の学習目標への関心は正の相関関係があった。これら正の相関関係があった4項目の学習目標をCEFR[®]の共通参照レベルに置き換えると、いずれもB2レベル以上であると判断できる。つまりポップカルチャーへの関心が高い未習者はレベルの高い学習目標に関心が高い傾向にあると言える。

しかし一方で相関関係がなかった他9項目の学習目標をCEFRの共通参照レベルに置き換えると、B2レベル以上の高い能力が必要だと思われる項目も含まれている。よってポップカルチャーへの関心が高い未習者は必ずしもレベルの高い学習目標だけに高い関心を示すとは言い切れない。

ではポップカルチャーへの関心が高い未習者が高い関心を示す学習目標にはどのような特徴がみられるだろうか。相関関係がみられた4項目の学習目標のうち、3項目「テレビドラマやアニメを字幕なしで理解できるようになる」、「マンガを日本語オリジナル版で読めるようになる」、「マンガのシナリオや小説を書けるようになる」にはポップカルチャーに関連が深いコンテンツが含まれている。このことからポップカルチャーへの関心が高い未習者は、どのレベルに到達したいかというレベルの高さを目標設定の基準としているのではなく、何ができるようになりたいのかという具体的な行動、なかでもポップカルチャーに関連が深いコンテンツを基準として目標を設定する傾向があると推察できる。

このような傾向にある未習者が日本語学習を開始した場合、単により高い能力を要するタスクを達成した達成感よりも、ポップカルチャーに関連が深いコンテンツに触れながら学習することのほうが、強い動機付けになるかもしれない。

ポップカルチャーに関連が深いコンテンツに触れながら学習するには2つの可能性が考えられる。1つは、例えば教科書の会話文の挿絵にマンガを使うなど、形式としてポップカルチャーに関連したものを採用した教材で学習する場合が考えられる。もう1つは、例えば日本語で書かれたマンガなど、生の素材を教材として学習する場合が考えられる。

熊野・廣利 (2008: 65) は「アニメ・マンガ」好きの学習者が「教科書のような日本語に『ア

『アニメ・マンガ』を絵として利用するより、『アニメ・マンガ』そのもの、あるいは『アニメ・マンガ』によく現れるが辞書などで調べにくい話し言葉などの表現や『アニメ・マンガ』特有の表現を理解する助けを求めているようである」と述べている。つまりポップカルチャーへの関心が高い学習者は、ポップカルチャーの形式に魅力を感じているのではなく、娯楽としてのポップカルチャー作品そのもの、あるいはポップカルチャーが持つ雰囲気の魅力を感じているのではないかという主張である。

熊野・廣利(2008)は学習者を対象とした調査であるが、この点は未習者にも共通して該当するだろう。なぜなら現在流通しているポップカルチャーそのものを日本語で理解し、楽しみたいという態度は、学習者であれ未習者であれ、共通していると考えられるからである。

しかしポップカルチャー作品そのものだけを学習リソースとして活用することが、ポップカルチャーを楽しむための能力を身につけるのに効果的な方法であるとは限らないだろう。逆に言えば、ポップカルチャーの要素がまったく取り入れられていない教材を学習リソースとしても、ポップカルチャーを楽しむための能力を身につけられるかもしれない。つまり何をどのように学習すれば、ポップカルチャーを楽しむための能力を効果的に身につけられるのかという点については、現在のところ教育実践においても研究においても、十分に議論されているとは言えず、これから先の研究が待たれているという段階である。

6. 終わりに

本稿の冒頭でも述べたように、日本のポップカルチャー人気と日本語学習の関連については、教育現場のみならず政策レベルにおいても高い関心が寄せられている。本研究の結果は日本語の普及や日本語学習者を増やすという観点においては、ポップカルチャーへの関心が高い人々をターゲットにすることが効果的であるという仮説を支持するものとなった。換言すれば、ポップカルチャーへの関心が高い人々を日本語学習のスタートラインに立たせることは、そうでない人々をスタートラインに立たせることよりも容易であると言える。

ではスタートラインに立ったポップカルチャーへの関心が高い学習者は、彼らの目標でもあるゴールにたどりつくために、どのような道を進んでいくのだろうか。その道にはどのような特徴があり、どのようなサポートが必要なのだろうか。この点については教育現場でも研究でもまだ十分に議論されていない。しかし日本語学習を支援するということは、まさにその道中をサポートするということである。

日本語を普及すること、また日本語学習者を増やすということは政策面において重要な課題ではあるが、スタートラインに立った人が継続し、長期間日本語を学習しつづけられるように支援することも同様に重要な課題である。今後も増加していくと推察されるポップカルチャーへの関心が高い学習者を、継続してサポートするためには、教育現場、研究、政策が一体とな

って教育的支援を検討する必要があるだろう。

〔付記〕

本研究では予備調査時より多くの方にご協力いただきました。質問紙作成のためにご協力いただきました諸機関関係者の皆様、質問紙に回答して下さった皆様に心よりお礼申し上げます。

〔注〕

- ^①外務省内に組織された「ポップカルチャー専門部会」の『『ポップカルチャーの文化外交における活用』に関する報告』では、ポップカルチャーを「一般市民による日常の活動で成立している文化」として捉え、「具体的にアニメ、マンガ、ゲーム、J-POPのほか、ファッションや食文化等の分野が対象になる」としている。
- ^②「マンガ・アニメ・ゲームを中心として、音楽・モードを含めた日本のポップカルチャーと、書道や武道・茶道・折り紙などの伝統文化を合わせた、日本のフェスティバル」(Euro Japan Comic ホームページより転載)
- ^③「海外との人の交流に関する重要事項」を調査審議する外務大臣の諮問機関であり、平成14年10月から外務省の領事改革及び外国人問題をテーマとして審議を行い、2006年から「我が国の発信力強化のための施策と体制」をテーマとして審議を行っている。(外務省ホームページより転載)
- ^④「日本のテレビドラマを見る」、「日本のアニメを見る」、「日本の映画を見る」、「日本のマンガを読む」、「日本の音楽を聴く(JポップやJロックなど)」、「日本で流行しているファッションを見本にして服を選ぶ(ロリータやビジュアル系など)」、「日本のテレビゲームで遊ぶ」の7項目が抽出された。
- ^⑤1999年に欧州評議会に認定された European Language Portfolio の第1号(認定番号1.2000)
- ^⑥「日本の映画を観る」を省いた。
- ^⑦世界の若者に人気のアニメやファッションなど日本のポップカルチャーを多角的に紹介することを目的に開催されたイベント。ファッションショー、アニメーションの上映、マンガと日本語のコンテストなどが行われた。
- ^⑧Common European Framework of Reference for Language: Learning, teaching, assessment の略。

〔参考文献〕

- 萩野実美(2007)「日本のまんがとアニメー日本語教材としての可能性」『拓殖大学日本語紀要』No. 17、123-130、拓殖大学
- 熊野七絵・廣利正代(2008)「『アニメ・マンガ』調査研修ー地域事情と日本語教材ー」『国際交流基金日本語教育紀要』第4号、55-69、国際交流基金
- 因京子(2005)「日本語学習者の日本語会話解釈上の問題点：日本語学習者によるマンガ理解を通して」『九州大学大学院比較社会文化研究科紀要』11、83-92、九州大学比較社会文化研究院
- 矢崎満夫(2009)「アニメを素材とした日本語学習活動『アニメで日本語ーアニメーションのティーチング・ストラテジーに着目してー』」『静岡大学国際交流センター紀要』3、27-42、静岡大学国際交流センター
- 吉島茂・大橋理枝他訳・編(2004)『外国語教育Ⅱー外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通

日本のポップカルチャー・ファンは潜在的日本語学習者といえるか

参照枠―』(原著 *Common European Framework for Reference of Languages : Learning, teaching, assessment*. 3rd, John Trim, Brian North, Daniel Coste, 2002, Cambridge University Press.)

外務省 「わかる！ 国際情勢 Vol. 43 『にほんごできます！ 世界の日本語事情』」

<<http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/pr/wakaru/topics/vol43/index.html>> 2009年9月28日参照

_____ 「日本の発信力強化のための5つの提言」

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/annai/shingikai/koryu/pdfs/h18_teigen.pdf> 2009年9月28日参照

_____ 『『ポップカルチャーの文化外交における活用』に関する報告書』

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/annai/shingikai/koryu/h18_sokai/05_hokoku.html> 2009年9月28日参照

Euro Japan Comic 「第10回 Japan Expo」

<<http://www.eurojapancomic.com/fr/japanexpo.shtml>> 2009年9月28日参照

国際交流基金 「ジャパン・ポップ・フェスティバル」

<<http://www.jpf.go.jp/j/popculture/>> 2009年9月28日参照

_____ 「2004年度年報」

<<http://www.jpf.go.jp/j/about/outline/result/ar/2004/index.html>> 2009年9月28日参照

_____ 「2007年度年報」

<<http://www.jpf.go.jp/j/about/outline/result/ar/2007/index.html>> 2009年9月28日参照

Council of Europe Swiss European Language Portfolio Model +15

<http://www.sprachenportfolio.ch/esp_e/esp15plus/index.htm> 2009年9月28日参照

稿末資料 1. 本調査質問紙

Questionnaire

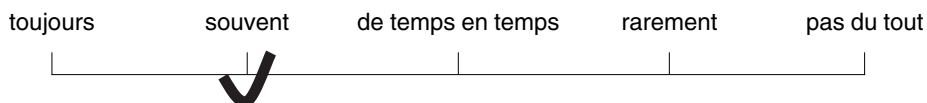
Ce questionnaire est composé de 3 blocs de questions et 5 pages au total. Il faudra à peu près 5 minutes pour répondre. Le premier bloc est sur le comportement concernant la pop culture japonaise. Le Deuxième et le troisième blocs sont sur la langue japonaise. Merci de répondre à toutes les questions s.v.p.

Bloc 1

Choisissez et cochez une réponse parmi cinq choix (toujours, souvent, de temps en temps, rarement et pas du tout) qui correspond à votre comportement .

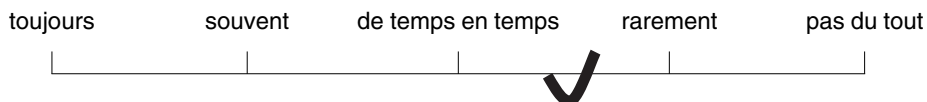
Bon exemple

Je vais au restaurant japonais.



Mauvais exemple

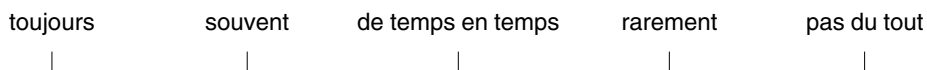
Je vais au restaurant japonais.



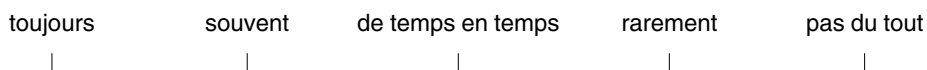
Ne cochez pas entre des choix s.v.p.

Voici les questions.

1. Je regarde des *dramas* japonais.



2. Je regarde des dessins animés japonais.



T.S.V.P

3. Je lis des mangas japonais.

toujours souvent de temps en temps rarement pas du tout

|-----|-----|-----|-----|

4. J'écoute la musique japonaise (J-Pop, J-Rock etc.).

toujours souvent de temps en temps rarement pas du tout

|-----|-----|-----|-----|

5. Je choisis mes vêtements sur le modèle de la mode japonais (Lolita, Visual-kei etc.).

toujours souvent de temps en temps rarement pas du tout

|-----|-----|-----|-----|

6. Je joue aux jeux vidéo japonais.

toujours souvent de temps en temps rarement pas du tout

|-----|-----|-----|-----|

Le bloc 1 est fini.

Bloc 2

Choisissez et cochez une réponse parmi cinq choix (totalement d'accord, plutôt d'accord, ni d'accord ni en désaccord, plutôt en désaccord, totalement en désaccord) qui correspond à votre motivation .

7. Je veux activement apprendre la langue japonaise.

totalement plutôt ni d'accord plutôt totalement
d'accord d'accord ni en désaccord en désaccord en désaccord

|-----|-----|-----|-----|

Le bloc 2 est fini.

Bloc 3

Quel sont vos objectifs dans l'apprentissage de la langue japonaise?

Choisissez et cochez une réponse parmi cinq choix (totalement d'accord, plutôt d'accord, ni d'accord ni en désaccord, plutôt en désaccord, totalement en désaccord) qui correspond à vos objectifs.

8. Pour avoir la capacité de comprendre des dramas et des dessins animés sans sous-titres.

totalement d'accord	plutôt d'accord	ni d'accord ni en désaccord	plutôt en désaccord	totalement en désaccord
----- ----- ----- ----- -----				

9. Pour avoir la capacité de comprendre des émissions de l'actualité japonaise sans sous-titres.

totalement d'accord	plutôt d'accord	ni d'accord ni en désaccord	plutôt en désaccord	totalement en désaccord
----- ----- ----- ----- -----				

10. Pour avoir la capacité de comprendre des annonces de l'aéroport ou de la gare si je voyage au Japon.

totalement d'accord	plutôt d'accord	ni d'accord ni en désaccord	plutôt en désaccord	totalement en désaccord
----- ----- ----- ----- -----				

11. Pour avoir la capacité de lire des mangas japonais en version originale.

totalement d'accord	plutôt d'accord	ni d'accord ni en désaccord	plutôt en désaccord	totalement en désaccord
----- ----- ----- ----- -----				

12. Pour avoir la capacité de lire des journaux japonais.

totalement d'accord	plutôt d'accord	ni d'accord ni en désaccord	plutôt en désaccord	totalement en désaccord
----- ----- ----- ----- -----				

T.S.V.P.

13. Pour avoir la capacité de comprendre la carte de restaurant japonais.

totalem d'accord	plutôt d'accord	ni d'accord ni en désaccord	plutôt en désaccord	totalem en désaccord

14. Pour avoir la capacité de saluer des amis japonais.

totalem d'accord	plutôt d'accord	ni d'accord ni en désaccord	plutôt en désaccord	totalem en désaccord

15. Pour avoir la capacité de bavarder avec des amis japonais sur mon passe-temps.

totalem d'accord	plutôt d'accord	ni d'accord ni en désaccord	plutôt en désaccord	totalem en désaccord

16. Pour avoir la capacité de discuter sur l'actualité japonaise avec des Japonais.

totalem d'accord	plutôt d'accord	ni d'accord ni en désaccord	plutôt en désaccord	totalem en désaccord

17. Pour avoir la capacité d'écrire une carte ou une lettre à mon ami(e) japonais(e).

totalem d'accord	plutôt d'accord	ni d'accord ni en désaccord	plutôt en désaccord	totalem en désaccord

18. Pour avoir la capacité d'écrire un scénario de manga ou une histoire.

totalem d'accord	plutôt d'accord	ni d'accord ni en désaccord	plutôt en désaccord	totalem en désaccord

19. Pour avoir la capacité d'écrire des documents d'affaire .

totalem d'accord	plutôt d'accord	ni d'accord ni en désaccord	plutôt en désaccord	totalem en désaccord
----- ----- ----- -----				

20. Pour avoir la capacité de travailler (ou étudier) dans un domaine concernant le Japon.

totalem d'accord	plutôt d'accord	ni d'accord ni en désaccord	plutôt en désaccord	totalem en désaccord
----- ----- ----- -----				

Les questions sont finies.

Avez-vous déjà appris la langue japonaise? oui non _____

Age _____ sexe homme femme _____

Langue maternelle _____

***Avez-vous répondu à toutes les questions ?
N'oubliez pas de remplir votre expérience d'apprendre la langue japonaise,
âge, sexe et langue maternelle s.v.p.***

Merci de votre collaboration.

稿末資料2. 本調査質問項目日本語訳

この質問紙は5ページ、3ブロックで構成されています。回答には5分程度かかります。最初は日本のポップカルチャーに関する行動についての質問です。次の2つは日本語に関する質問です。すべての質問にお答えください。

ブロック1

5つの選択肢の中から（いつもしている／よくする／たまにする／あまりしない／全然しない）答えをひとつ選んでチェックしてください。

- Q 1. 日本のテレビドラマを見る
- Q 2. 日本のアニメを見る
- Q 3. 日本のマンガを読む
- Q 4. 日本の音楽を聴く（JポップやJロックなど）
- Q 5. 日本で流行しているファッションを見本にして服を選ぶ（ロリータやビジュアル系など）
- Q 6. 日本のテレビゲームで遊ぶ

ブロック2

5つの選択肢の中から（まったく同意する／どちらかと言えば同意する／同意でも不同意でもない／どちらかと言えば同意しない／まったく同意しない）あなたの動機に合う答えをひとつ選んでチェックしてください。

- Q 7. 日本語を積極的に勉強したい

ブロック3

日本語学習に関してどのような目標（目的）を持っていますか。

5つの選択肢の中から（まったく同意する／どちらかと言えば同意する／同意でも不同意でもない／どちらかと言えば同意しない／まったく同意しない）あなたの関心に合う答えをひとつ選んでチェックしてください。

- Q 8. テレビドラマやアニメーションを字幕なしで理解できるようになる
- Q 9. 日本の時事ニュースを字幕なしで理解できるようになる
- Q 10. 日本に旅行するときに、空港や駅のアナウンスを理解できるようになる
- Q 11. 日本語オリジナル版のマンガを読めるようになる
- Q 12. 日本語の新聞を読めるようになる
- Q 13. 日本料理のレストランのメニューを理解できるようになる
- Q 14. 日本人の友達に簡単なあいさつができるようになる
- Q 15. 日本人の友達と趣味についておしゃべりできるようになる
- Q 16. 日本人と日本の時事問題についてディスカッションできるようになる
- Q 17. 日本人の友達にはがきや手紙が書けるようになる
- Q 18. マンガのシナリオや小説が書けるようになる
- Q 19. ビジネス文書が書けるようになる
- Q 20. 日本に関する領域で仕事（もしくは研究）できるようになる

日本語を勉強したことがありますか。 はい / いいえ

年齢

性別

母語

